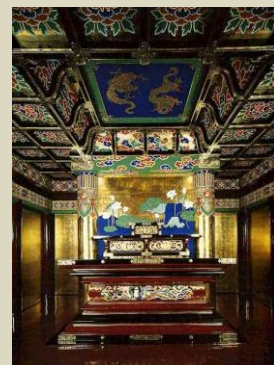


三重塔 重要文化財



正徳2年(1712)に建立され、宝暦7年(1757)享和元年(1801)安政5年(1858)釈迦堂建立年に大修理が行なわれています。又昭和58年(1983)平和の大塔建立年現在の姿に復元されました。

(建立から現在までに5回の修理) (1983年には2年かけての大修理が実施された)

塔の初層内陣には金剛界大日如来の「五つの智慧」をあらわす五智如来

(大日如来・阿閃如来・宝生如来・阿弥陀如来・不空成就如来)が安置されています。

塔の高さは相輪頂上まで約25メートルで初重の柱、長押、台輪等に地紋彫りを、各重の尾垂木の先端部は竜の丸彫で飾り、脇間板壁には十六羅漢の彫刻をめぐらしています。また板軒には雲文を浮彫りにして極彩色を施すなど、江戸時代中期の極めて華麗な塔であります。

(平和の大塔建立時) 昭和56年(1981)から58年(1983)にわたり漆塗・彩色工事を主体とした保存修理工事を行いました。この工事は享和3年(1803)の古文書に書き留められていた漆塗、彩色の仕様をもとに復元されました。

平成20年(2008)の大開帳にあわせて、漆塗りの彩色の修復

成田山大本堂前に極彩色豊かな三重塔が建っています。この塔は正徳2年(1712年)に当時の佐倉藩城主より20本余りの松の寄進を受けて建立されました。寺伝によると、成田山中興の祖である照範上人が霊夢を感じて発願されたといわれています。その後、宝暦7年(1757年)と享和3年(1803年)に修復が行われ、昭和56年(1981年)には過去の資料を元に漆塗りの彩色が施され、創建当時のきらびやかさが再現されました。高さは約25mです。「五智三重塔」という別名の示す通り、初重(1階に当たる部分)の内陣には、5つの智慧を備えているといわれる「五智如来(大日・阿閃・宝生・阿弥陀・不空成就)」が奉安されています。また、「心の柱」という塔柱があり、今では拝観することが出来ないのですが、江戸時代には塔内に入って拝観する事が出来ました。各層の尾垂木(屋根の枅組から斜めに突き出ている物)の先端には、竜が彫られており、脇間の板壁には島村圓徹の十六羅漢の彫刻がめぐらされています。なお雲水紋の彫刻を施した各層の垂木は一枚板で作られており、「一枚垂木」と呼ばれる非常に珍しいものです。

一階墓股の彫刻(写真参照) 琴(北) 囀碁(西) 孟母三遷(南) 琴高仙人(東)

三重塔心柱の墨書

新勝寺 三重塔 千葉県(千)成田市成田 1711(正徳元年) 墨書

棟梁	常州那珂郡羽黒村	桜井瀬左衛門	
次棟梁	同国同郡	中野左五兵衛	
	同国茨城郡笠間	藤田孫平次	竜の尾垂木
	下総国武射郡堺村	伊藤金右衛門	
彫物師	江戸〇〇住	無関圓鉄	羽目板「十六羅漢図」

各層の靈獸の裝飾には、それぞれ願いが込められている。

第一階層に「龍」 大地震や台風等の自然災害が起きないように願っている龍

第二階層に「麒麟」 麒麟は一角靈獸で角は肉に巻かれていて誰をも傷つけない。
世の中が良くなると麒麟が現れることから良い政治を願っている麒麟。

第三階層に「獏」 鉄や銅を食べる獏は、平和な世の中でしか生きられない生き物で戦争により鉄や銅が武器に使われてしまっては生きられない。恒久の平和を願っている。



龍（一層）



麒麟（二層）



獏（三層）

仁王門

琴棋書画（比較）

三重塔



琴



琴（北）



碁



碁（西）



書道



孟母三遷（南）



絵画



琴高仙人（東）

日光東照宮の陽明門 琴棋書画



談山神社 (たんざんじんじゃ) には木造の**十三重塔**が現存している。(奈良県桜井市)



三重塔内の五智如来 (sausalito さんのブログより)

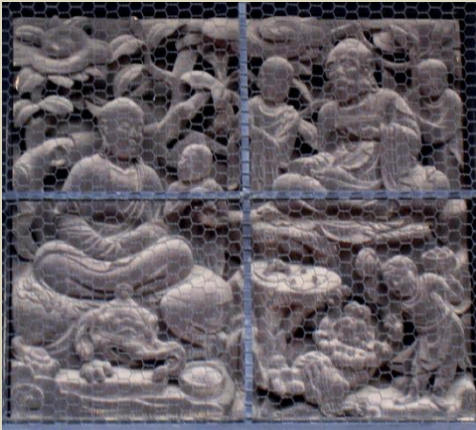


素晴らしい各層の板垂木

羽目板の十六羅漢



南側



東側



北側



西側



彫物師

無関圓鉄（嶋村家二代目島村圓鉄）

相 輪



相輪は通常七つの部分から成っています。

- 宝珠(ほうしゅ) 釈迦さまの遺骨を納めるところ。
- 竜車(りゅうしゃ) 高貴な人をのせる乗り物を表します。
- 水煙(すいえん) 火炎の透し彫のデザインですが、火をきらうことから水煙と呼ばれます。
- 宝輪(ほうりん) 九つの輪。五大如来と四大菩薩を表します。
- 請花(うけばな) 前記までのものを受ける飾りの台。
- 伏鉢(ふせばち) お墓の原形、土まんじゅうの部分。
- 露盤(ろばん) 伏鉢の土台。

中央を貫く心棒の部分は、刹管さつかんまたは擦さつといいます。

相輪にはバリエーションがあり、宝輪が 8 個のもの、宝珠・水煙が他のものに置き換えられたものなどもあります。

五智如来 阿弥陀如来 ↑ 不空成就如来 大日如来 宝生如来 ↓ 阿閃如来
四大菩薩 胎蔵界の大日如来の四方位に位置する菩薩。

普賢菩薩(南東) 文殊菩薩(南西) 観自在菩薩(北西) 弥勒菩薩(北東)
上行菩薩、無辺菩薩、浄行菩薩、安立行菩薩の場合もあります。

両界曼荼羅(りょうかいまんだら)は、日本密教の中心となる仏である
大日如来の説く真理や悟りの境地を、視覚的に表現した曼荼羅である。

三重塔 重要文化財 説明文

正徳2年(1712)に建立され、宝暦7年(1757)、享和元年(1801)、安政5年(1858)に大修理が行なわれています。又昭和58年現在の姿に復元されました。

塔の初層内陣には金剛界大日如来の「五つの智慧」をあらわす五智如来(大日如来・阿閃如来・宝生如来・阿弥陀如来・不空成就如来)が安置されています。

塔の高さは相輪頂上まで約25メートルで初重の柱、長押、台輪等に地紋彫りを、各重の尾垂木の先端部は竜の丸彫で飾り、脇間板壁には十六羅漢の彫刻をめぐらしています。また板軒には雲文を浮彫りにして極彩色を施すなど、江戸時代中期の極めて華麗な塔であります。

昭和56年から58年にわたり漆塗・彩色工事を主体とした保存修理工事を行いました。この工事は享和3年(1803)の古文書に書き留められていた漆塗、彩色の仕様をもとに復元されました。

私の調査研究(詳しくは成田山研究室を参照下さい)

(説明文では「各重の尾垂木の先端部は竜の丸彫で飾り」との記述があるが、

三層目の尾垂木の先端部は龍でなく漢である)

即ち一層目は全て龍、三層目は全て漢、二層目のみ尾垂木は龍でその他は麒麟である。